

NPO 法人コスモ夢舞台

フクロウだより

Vol.8
第6号



平成29年7月17日

きょう7月17日(月)は海の日。いよいよ本格的な猛暑の続く毎日となつてまいりましたが、皆さまにはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。またこの度、九州地方を襲った豪雨で被災に合われた皆さまには、心からお見舞いを申し上げます。

さて豊実では、和彩館前の貸家の修復が着々と進み、また、お山の「桃源の湯」には新しい浴槽が一つ加わりました。どんどん変化しているようです。

6月24日(土)に芝浦工大で行われた【佐藤賢太郎 講演会】では、大塚秀夫さんのご尽力でラクビー部の新旧ラグーマンの面々とコスモ夢舞台の皆さまが親しく交流するという嬉しい体験もありました。

今月末(7/29)は、「奥阿賀・魅力ある野外舞台」が里山アート展会場で開催されます。NPO 法人コスモ夢舞台としては「後援」の立場で、今年も音楽と踊りの若者の祭典を応援してまいります。

第2回目となるイベントに、今年はどんな出会いが待ち受けているか、今から楽しみです。実行委員会一同、皆さまのご来場をお待ちしています。

8月に入りますと、「地域づくり賞」にノミネートされている全国8団体のプレゼンテーションが東京の国土交通省の会議室で開かれます。10分間の持ち時間をどう有効に使うか、佐藤さんも“腕(?)の見せどころ”と張りきっています。

さらに、“動物たちのまなざし展“(下記)と題して、佐藤賢太郎展が「ギャラリーマスガ」で9年ぶりに開催されます。ぜひ、足をお運びください。

(事務局/森絃一)

<直近のイベント予定>

■第2回「奥阿賀・魅力ある野外舞台」 7月29日(土) 13:00~14:30

里山アート展会場

主催：奥阿賀・魅力ある野外舞台実行委員会 後援：NPO 法人コスモ夢舞台

■佐藤賢太郎展“動物たちのまなざし展” 8/19日(土)~27日(日)

福島県須賀川市「ギャラリーマスガ」 *8/22日(火)は定休日

2017. 7. 14

豊実におきている現象

佐藤賢太郎

その1

皆さんにお伝えしたいことは、何といても国土交通省の「地域づくり賞」の受賞がかかっているということです。まさか、その候補にコスモ夢舞台がなろうとは思いませんでした。温泉もない、名物もない、何も無いところが豊実の特徴です。そこにスポットが当たろうとしています。これはすごいことです。

その2

日本人からの問い合わせがないのに、外国人から次々と滞在したいと問い合わせが来ています。受けきれないくらいです。これも凄いことです。これで14カ国目となります。皆さんは、そんなに豊実が魅力のある処だと思うでしょうか。きっと思わないでしょう。私は多くの皆さんの力を結集して、無いもないところを魅力ある処にしようと思っています。

その3

新潟大学のダブルホームの学生から、今年から諸事情で豊実に来られなくなりました。しかし、今後ともおつきあいよろしくお願いします。そんな意味を込めて、ダブルホームの代表の先生と学生が我が家にお出でになりました。なぜ学生を受け入れるか、思うところを話しました。

代表の先生はダブルホームも10年が過ぎ、次にどうしようかと考えている時に、大変いい話をしていただきましたとおっしゃいました。

ある先生は、学生が来る目的は「生き方を学ぶ」ためですね、と言いました。

帰りに和彩館の前の貸家の変化を見ていただいたところ、先生と学生は感動してくれました。私は学生にも使って頂こうと思います、と付け加えました。

その4

桃源の湯の4つ目の風呂設置には苦労しました。それ以前風呂釜直しは大がかりで修復しました。お陰様です。皆さんその風呂に入れることでしょう。しかし私は貸家のリホームは何といっても作品の大作りです。これは人がいないとできない作品です。つまり人に動いていただくことがポイントです。ともあれ、講演会が終えて、その他全力投球であれもこれもやっています。そのせいか、私が風邪をひいたと心配してくれたようですが、これだけのことをやるのは普通のことをやっては到底できません。

そんな今だからこそ、何にもない静かな豊実に変化が起ころうとしています。

2017. 5. 21

飯野直樹さんとの対談

教え子と語る1

佐藤: 私の30代前半は埼玉県川口市の中学校の教師で、柔道部の顧問をしていました。飯野君は中学2年生だったのでしょうか、誰々先生と賢太郎先生は「仲がいいですね」ニヤリとしていた顔を思い出します。その後、私は庄和町の江戸川中学校に転任して、飯野君の事も忘れてしまいました。月日がたち私が彫刻家として、大宮の高島屋で作品を展示した時だったかと思います。飯野君が大宮の高島屋に来てくれました。どうして個展に来る気になりましたか。

飯野: 柔道部は小学校の卒業前から中学校に入学したら入部しようと友人と決めていましたが、先生の事を一つ違いの姉や、幼なじみの不良グループの人達から、厳しく怖い先生だと脅かされていました。しかし柔道が続けて行きたかったので入部しました。先生は毎日職員室から道場へ来るときはサンダルを引きずり、肩をいからせ、時には竹刀を片手に堂々と現れて恐れられていました。道着に着替え指導が始まります。大学時代にラグビー部で鍛えられた身体には、中学生ではとても及びませんでした。二年間指導をして頂き、夏休みの稽古でも先生と一緒に汗をかき、礼儀作法や挨拶も含めて厳しく指導をして頂きました。なぜか道場でラグビーの試合もしていました。先生は私が中学三年の時に北中を去られましたが、みんな厳しい先生がいなくなると喜んでいました。私はその時代に経験し身に付けた精神力や他人への思いやりの気持ち、挨拶や感謝する事の大切さが身をもって感じ取り、人生に大きな影響を及ぼしているなど、何か有るたびに感じていました。心のどこかでいつも一度お会いして御礼をしたいと思っていました。高校生時代は先生の影響でラグビー部に入り厳しい練習にも耐える事ができました。社会人となりおかげ様で人間関係も上手く行き過ぎていました。ある時、突然身体が病気に襲われました。私は38歳で娘が幼稚園生でした、手術と放射線治療により生還できました。3か月休職期間中に治療で病院と自宅の通院中に電車でたまたま新聞の片隅に「佐藤賢太郎展」大宮高島屋の記事が目飛び込んできました。しかし同姓同名かもしれず、24年以上の月日が流れているけれど、その時は精神的に落ち込んでいたので会いたいと思い、先生からまた何か教えを得ることが有るかもしれないと思い、東京都内の病院から帰りに大宮高島屋へと自然と足が向いていたと思います。

佐藤: 再会して以来、飯野君の会社で使ったコンパネをコスモ夢舞台の活動に使うために東京の工事現場と一緒にいったことがあります。また大きな立派なタンスを東京に車を走らせたりしているうちに、私はコスモ夢舞台会員にならないかと話をしましたね。誘われてどうでしたか。

飯野: 大宮高島屋に行って再会が出来て本当に良かったなと思いました。コンパネ、タンスを運搬する車中でコスモ夢舞台の活動を聞き、興味が湧き、豊実に行って作業に参加してみたいと思いました。

佐藤:そして娘の美月ちゃんが小学4年の時、豊実に来て味噌づくりをしました。2007年の新潟日報新聞に載りました。その美月ちゃんも大学生になった。年月が経つのは早いですね。飯野君との出会いは中学生の時だったね。今回、味噌づくりに来られなかったけれど、美月ちゃんが電話の向こうで、犬のチ口と話したいと言う娘さんになりました。何語で話すのでしょうか。微笑ましいです。チ口と電話で何を話しましたか。

飯野:娘は今回の味噌作りも参加したいと言っていました、高校の部活 OG として参加するイベントの予定と重なってしまい参加できませんでしたが、豊実に行きたい理由はもう一つあったと思います、チ口と会いたかったからです。蓮田の畑を借りていた頃に、犬が大好きでリキとチビに出逢い散歩をすることを毎週楽しみにしていました。畑仕事は二の次でいつも2匹とたわむれていました。2匹が豊実で生活する事になり車に乗せて豊実に連れて行く事になった時、彼女は別れた悲しみが思い出となってしまったと思います。豊実で暮らして何年後かにチビが行方不明になり、数年前にリキが亡くなりとも彼女は悲しんでいました。その後チ口と出会い、とても喜んでいて、いつもチ口の事が心に有り忘れてほしくないと考えていたと思います。そんな気持ちをチ口に電話(声)で伝わるか声を覚えているのか知りたかったのではないかと思います。娘の声にチ口の耳が電話を当てた方だけピクピク動いて反応した事を伝えました。

佐藤:川口北中時代、飯野君からすれば先輩の小板橋君とコスモ夢舞台の桃源の湯の屋根を作ったことを覚えていますか。危険と隣り合わせでしたね。

飯野:中学卒業以来の再会でした。桃源の湯の屋根を崖の上で作業している時は、危険を伴いました。屋根張の時に屋根上での作業は、屋根上から崖下を見ると恐怖で足が動きませんでした。慣れ無い私を気遣って頂き、長靴を履いていた私に地下足袋を履く様に言われて渡された時は感動しました。柔道部の先輩、後輩の時代にしごかれた思いと、優しく指導して頂いた思い出が心の中で溶け出して来た様に思い、何年経っても変わらないと感じながら屋根掛けを終わらせた事を覚えています。

佐藤:ところで会社では現場監督から安全管理のトップになったと今聞きました。人間、危険という環境に置くことは必ずしもマイナスではないと思いますよ。私なんか危険と何時も隣り合わせで仕事やコスモ夢舞台の作業をしています。そこに古田さんが豊実に移住しました。怪我の無いように、気配りをしなければなりません。それこそ安全管理者になりました。もし命に関わるがありましたら、コスモ夢舞台活動を辞めるしかなくなるでしょう。古田さんはそんなことを考えていないと思いますが。まさに私は会社の安全管理者です。飯野君はいま仕事としての気遣いは自分の生活が懸かっていますね、大変でしょう。中には若造が何を言っている、などと思われるかもしれませんが。人をまとめることの難しさはどこでもあります。総合力、人間力だと思います。怪我はいつ起こるか解りません。

飯野:その通りだと思います。怪我や事故を起こしたい人は誰もいません。しかし現実に世の中では毎日の様に怪我や事故や災害が発生しています。なぜでしょう? 人それぞれ立場や生活環境、性格が違い

ます。安全に作業を進める為には、設備や環境も重要ですが、人として一人一人の危険に気が付く力とお互い相手の事を家族の様に愛情を込めて思いやる、それを相手に納得してもらえるような実践的な行動力や発信力が不足しているのだと私は思います。難しい事ですが立場上実現したいと私は思っています。

佐藤:そこで気づきと安全ですが、誰もが気づいたらすぐやったほうがいいと思っても、実行に移すのはなかなか難しいのでないでしょうか。私は思います。日頃から、気づいたら直ぐ行う習慣をつけることです。コスモ夢舞台の活動も、いつかやろうなんて思わないことです。そんな人には気づきが来ないと思う。だからすぐ行うことにしている、と言うより生活環境がそうしました。そこで気づきが良くなったと思います。私は今が自分の人生で一番頭は冴えている、そういうと、毎日そばにいる古田さんは笑いますが、私は本当にそう思うのです。遠く離れたあなたからはどう見えますか。

飯野:当社の現場では毎日約300人前後の作業員が各現場で働いています。下請けは請負で仕事をしているので、安全第一と掲げていても職人の本音としては、金にならない安全より、儲けが先に立ってしまい、見られていなければ、危険に気付いていても通り過ぎてしまい、安全管理者は煙たがられているのが現状だと思います。しかし現場から怪我や死亡に至らしめる様な災害は発生させる事は絶対に起こせません。

佐藤:気づきと言いますが何をするか?その気付きがなければ、今何をするかにしてもやりようがない。本当にそう思います。どうですか?

飯野:危ないと思う気持ちや気づき方はひとそれぞれで、経験年数や過去の体験(ヒヤリ・ハット)や性格によってかなり温度差があります。ですから、「危ないからダメだよ」と注意でき、適正な作業を指示できる人間は、全てにおいて敏感に感じ取れる能力が求められます。その能力が高くなければ、現場はそれぞれがやりたい放題の無放置になり、大変危険です。

佐藤:「気づきは大自然の摂理を直観的にキャッチする叡智」と学びます。これができたらすごいですね。自然が一杯あれば身に附くとは限りませんが、豊実の暮らしは、田んぼの入り、米や畑を耕し自然環境に身を置く機会が多くあります。飯野君も畑づくりをよくしました。子供たちもよく見ていました。

飯野:畑を一生懸命に耕し、汗を流して土とたわむれる事や土の中の幼虫やモグラの通路を発見することは楽しい。野菜の苗を植えて育て、収穫まで観察し、採りたての野菜をその場で食べたりすることも楽しい。スーパーで売っている様なきれいな野菜じゃなく、無農薬で育った野菜は虫に食べられて形は悪くても、おいしく無駄なく食べられ、春夏秋冬が実感できる。畑はとても良い体験になりました。また、家族みんなで食に対する感謝の気持ちが備わり、子供たちも働く実感や自分が必要とされていることを自らが確認できた様で楽しんでいて良い教育ができたと思います。先生に畑をやると良い勉強になる事を、進められ挑戦した事は本当に良かったとつくづく実感しています。お陰様で今でも近所で続けています。

佐藤: せっかくの気づきを生かせない人がいるとも学びました。それは、「私は間違っていない」と反省しないなどと我を張る人だそうです。家内は私がより善くなると願うから言うのですと、この点をよく指摘されます。

飯野: 自分の考えは絶対だと思っている人は、考え方に自信を持っているからだと思いますが、その自信の根拠は本人しかわかりませんが、陰ながら努力していると思います。他の意見に聞く耳を持たないでいると心の成長は期待できないと思います。他人の悪いところを見つける事は簡単ですが、良いところを見つけ出す心がけが大切な事だと思います。

佐藤: 私には次々と判断しなければならないことが多くありました。正しいとわかってから実践したほうがよい、この言葉は最も響きます。教師を辞めて彫刻家として生きようと決断したのは、正しいとわかってから動いたのではありません。実践しなければ解らないこともあります。外国人の受け入れ、海外での活動も正しいとわかってから動いたのではありません。どう思いますか？

飯野: 世の中、どちらにするかの選択に迫られる事が多々有りますが、その判断が正しいのか誤っているのかはその時は分からないと思います。判断力は人に備わっているインスピレーション能力だと思いますが、瞬時に感じ取れる人やそうでない人、その後失敗だったと思いきらめる人と、失敗を失敗と思わずに成功へと変化させ挑戦し続けて行く人など様々だと思います。先生はとにかく真っ直ぐと前に進み続ける力と、直感力は素晴らしいと思います。

佐藤: 言ったことを実行しない人は、言葉の重さに関わります。やったけど駄目だったということとは大きな違いがあると思います。

飯野: 私が働いている建設業には大きく分けて、土木と建築に分かれます。建築はビルを地上から空に向かって見えている空間に構造物を作って行きますが、逆に土木は見えない地下に構造物を作るので、豊富な知識と経験や勘、判断力が必要になります。地下の工事現場は高い地下水圧と天然ガスの発生の危険と常に隣り合わせです。先生の質問の意図とは外れているかも知れませんが、私の職場では実行しなければならない事は確実にいき、地下水を逸水させる様な災害の発生は許されません、一歩間違えると去年の博多駅前の大陥没事故のような事が起こってしまいます。あの事故原因は詳しくは分かりませんが、事故には何等かの原因や予兆が有ります、そこに気づかなかったのか？気づいていたと思います。現状から逃げずに対策をみんなで必死に考え尽くしていたのかと思います結果的にはくい止める事はできませんでした。失敗は成功の元なので経験は必ず生かされる事でしょう。

佐藤: 里山アート展の作品づくりはインスピレーション(気づき)の訓練になります。実践していない人に気づきがないと私も思いますが、里山アート展に何回か参加してどうですか。会社での仕事で参考になるかどうかは、受け止める幅があるかどうかであると思います

飯野: 二年前に家族で里山アート展に参加して感じたことは、最初に事前に考えて来た作品のイメージ

を先生と話をしながら会場を一回りして会場の西側に「この場所に作品を考えて作って！」と一言。2本並んだ電柱を柱替わりにして、梁を渡してロープを垂らしブランコを作りました。職業柄、材料の選択や加工方法、作業の手順や使用する道具を段取り、使用上の注意等は解っているので、その事を幼稚園生の息子と話し合っ理解させ、気を抜く事が無い様にその気にさせながら作業しました。長い梁を高い所に水平に乗せる時が大変で、足元が悪い場所で試行錯誤してお互い怪我だけはしないように慎重に作業しました。息子も子供ながらに倒れそうな長い梁の下で恐怖を感じながら私が登っている梯子が倒れないように必死に押さえたり、ロープを力いっぱい真っ赤な顔で引っ張ったりしていました。息子には初めての経験だったと思います。このような幼少期の様々な体験によって気づく力が養われて行くのだと信じて期待しています。ブランコはその後に装飾を施されて「愛の空中ブランコ」と命名されて完成させて頂きました。当時高校生の娘は、里山アート展入口に式典プログラム看板の作成を先生から突然「こんな感じで看板書いて」と頼まれました、戸惑いながらオリジナルで完成させる事ができて本人も満足していました。子供から大人まで、県内外在住の方やジャンルの違うプロの芸術家の作品と同じ舞台上で自由に表現が出来る。参加していく中でだんだんと楽しくなって、最後は家族で達成感を感じる事ができたと思います。

佐藤：飯野君は見ていて本当に良い意味で子煩悩だと思います。どうしてそんなに子供のことを気遣うことができるのでしょうか。

飯野：自然の摂理で神様から授かった大切な子供への愛情は、心で感じた事を自然に素直な気持ちで当たり前で接しているつもりなので、子煩悩と思われる理由は正直言って解りませんが、心に感じ取る気持ちは人それぞれなので、私が思うには、私も子供の頃から同じような愛情を親から頂いているからだと思います。恋愛も一緒だと思いますが、我を押し付けずにお互いが認め合い気遣いしないと大好きになれないし、成り立たないと思います。

佐藤：私が教えた以上のことを自分で考え実行する人間になった飯野君が教え子であり、今コスモ夢舞台会員であることをありがたく思います。

須賀川局
料金後納
郵便

ゆうメール



石彫「アートで町おこし」

佐藤賢太郎展

2017年8月19日(土)～27日(日)

AM10時～PM6時 22日(火)定休



「ホープ君」



「おらが春」

動物
たちの
まなざし
展



「まだかな」



「可愛いわが子」

21年前に当画廊企画「アトリエの訪問者たち展」で爆発的人気を博して以来、デパートでの個展や美術館での発表など変わらぬ人気を誇ってきました。その一方で、佐藤さんが故郷・新潟県豊実に戻って取り組んだ「里山のアート展」は新潟県では知らない人はいないくらいの有名な町おこし事業にまで発展しています。一昨年は、ギリシャでも制作してきました。日本の石彫家では彼ほどに精力的に活躍している作家さんは他にいないのではないかと思います。さて、今回は愛くるしい身近な動物たちを主人公にした展覧会です。存分に彼らとの対話を楽しんで頂きたいとご案内いたします。

ギャラリーマスガ 増賀睦朗



ギャラリーマスガ www.gallery-masuga.com
〒962-0052 福島県須賀川市西川池ノ上 31-2 TEL & FAX: 0248-76-7511



★カーナビへは「ギャラリーマスガ」が電話番号を入力頂くと正確に案内が出ます



「リキ」



「太古のとり」



「ファイト」



「めずめ」



「うーん」



「バッチリふくろう」

<佐藤賢太郎 略歴>

1948年新潟県阿賀町生まれ。工業大学卒業後9年間教職につく。退職し彫刻家を目指し3年間彫刻家鈴木正夫氏に師事。以後彫刻家として、埼玉県に在住し個展やモニュメント、シンポジウムに参加し作家活動を展開。2006年から郷里阿賀町に居を移し作品制作する。

一方、また郷里にコスモ夢舞台と称し感動ある人間交流の場を作ろうと仲間とある建物をリフォームし、アートギャラリーや郷文館、レストラン、東屋、手作り風呂などを創り、それを活用し里山アート展をはじめ、各種イベントやシンポジウムを開催。さらにこの空間を農業や体験教育の場と生かし、ふるさと景観再生にまで夢が広がってきた。人の結集とアート力と自然を主かし過疎地に魅力ある空間を創ろうと力を注いでいる。2014年ギリシャ・イリダ地方自治体の名誉市民となる。

POST CARD

Postcard address lines

奥阿賀・魅力ある
野舞台
第2回
2017
楽阿賀・魅力ある
野舞台
第2回
2017
音楽と踊りで
楽しむ
交流空間

日時 7月29日(土) 13:00~14:30

会場 新潟県阿賀町豊実乙下野(里山アート展会場)



主催 奥阿賀・魅力ある野舞台実行委員会
協賛 公益財団法人 新潟県文化振興財団 (後援) NPOコスモ伊勢台
協賛 長岡市立音楽・芸術センター 越前町芸術・文化センター
協賛 ほうとうの会 新江田音楽 藤山山楽会 常陸音楽 阿山山楽
協賛 奥阿賀 いはらぎ 木子と舟橋 澤野文香商店 澤野静香商店
協賛 川大湯温泉 リサイクル入浴 青柳エンジニアリング 美野屋 下越湯温泉
(お問い合わせ) 奥阿賀・魅力ある野舞台実行委員会 TEL.0254-96-2003



2017
7.29(土) 13:00▶14:30

会場 新潟県阿賀町豊実乙下野(里山アート展会場)

主催 奥阿賀・魅力ある野舞台実行委員会 協賛 公益財団法人 新潟県文化振興財団 後援 NPOコスモ伊勢台
協賛 長岡市立音楽・芸術センター 越前町芸術・文化センター ほうとうの会 新江田音楽 藤山山楽会 常陸音楽 阿山山楽
協賛 奥阿賀 いはらぎ 木子と舟橋 澤野文香商店 澤野静香商店
協賛 川大湯温泉 リサイクル入浴 青柳エンジニアリング 美野屋 下越湯温泉
(お問い合わせ) 奥阿賀・魅力ある野舞台実行委員会 TEL.0254-96-2003

入場無料